

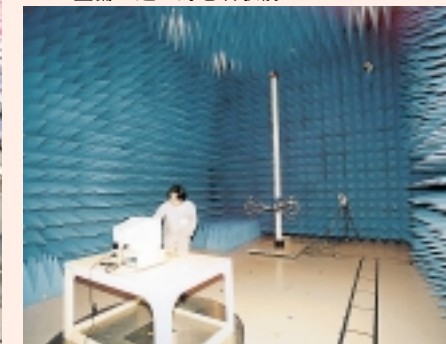
# 市制30周年

# 夢ある海老名へ新時代

11月1日は市制30周年記念日です。この30年で、市は農業中心のまちから都市化が進行し、道路、各種公共施設などのハード面を整えながら、着実な歩みを進めてきました。同時に社会も少子高齢社会への移行、地球環境問題の深刻化など、大きく様変わりしました。地球環境満30歳の今年度から、市では第三次総合計画の後期基本計画(10年間)がスタートし、厳しい財政の中、「ハードからソフトへの転換」をキーワードに、社会情勢に合った、調和のあるまちづくりを進めています。今回、併せて市長随想特別編、広報モニターから寄せられた海老名への思いをご紹介します。



▲整備が進む海老名駅前



▲県産業技術総合研究所



市長随想・特別編

海老名市になって30年。新しい世紀がスタートした年が、市の節目の年であることは、気が引き締まる思いです。今回は自分自身の過去を振り返るとともに今後の海老名のことをお話ししたいと思います。

### 〇私が30歳のころ

私は、昭和20年から半世紀以上海老名で暮らした。大学卒業後30年余り教員として過ごした。教職を選んだきっかけは、小学校時代にふかのほりです。担任の先生が、授業中は厳しかったのですが、休日は山歩きに連れられて行く。そのときの表情はとても穏やかでした。この担任の先生の厳しさと温かさを、めりはりのあるところにひかれ、教員を目指したのだと思います。教員時代は、「人間飾ったところをいつかは化けの皮がはがれる。それなら最初から素顔」という性格もあって、体当たりでした。卓球、野球、陸上、スポーツは何でも本気で生徒と競いました。特に最初に担任した有馬中学校では、生徒との年齢が近く、楽しかった。しかるときも全力でした。

### 〇今の社会、これからの社会

最近、当時の教え子の一人が、「昔はみんなが大きな垣根の中で生活していた」と話していました。家族はもちろん、近所のおじさん、おばさんが声をかけてくれ、悪いことは本気で叱ってくれたというのです。でも今は違う。大人は見ても見ぬふりをする。「しつこく嫌な思いをすることを避ける」という積み重ねが、何をしても許されると思い込む、無責任な社会を作り上げてしまった。人間は、大人も子どももお互いに注意したりされたりしながら成長していくものであるのに。



教員1年目、有馬中の生徒と



大きく変わった中央地区

昭和1けた生まれの私にとって、今の何よりも自由なものが言える時代は感慨深い。これは、同時に「責任ある発言が求められる」とも感じています。

### ～まちのあゆみ～

- 昭和41年(1966年) 国分155番地(当時・現海老名プライムタワー付近)に町庁舎(旧市庁舎)完成
- 43年(1968年) 東名高速道路が開通
- 46年(1971年) 11月1日、海老名市が誕生(県内16番目)
- 47年(1972年) 市民憲章、市の木「ツゲ」、市の花「サツキ」制定
- 48年(1973年) 小田急線・相鉄線海老名駅が現在地に移転、業務開始
- 50年(1975年) 相鉄線かしわ台駅(旧大塚本町駅)・さがみ野駅開業
- 51年(1976年) 第1回「ふるさとまつり」開催
- 54年(1979年) 消防北分署完成
- 55年(1980年) 文化会館・中央公民館が現在地に完成
- 58年(1983年) 総合福祉会館開館
- 59年(1984年) 消防南分署完成
- 60年(1985年) 図書館・教育センター開館  
平和都市宣言を議決
- 62年(1987年) 国鉄(現JR)相模線海老名駅開業
- 63年(1988年) 人口が10万人に到達
- 平成元年(1989年) 市庁舎、消防庁舎が現在地(勝瀬175番地の1)に完成
- 3年(1991年) 主要地方道横浜・厚木線「海老名跨線橋」完成  
市の鳥「カワラヒワ」制定  
宮城県白石市と友好都市に
- 4年(1992年) 市民休施設「えびな夢科荘」開館
- 6年(1994年) 白石市との提携を姉妹都市に
- 7年(1995年) 有馬図書館開館  
海老名中央公園地下駐車場完成  
野外教育施設「富士ふれあいの森」開設  
相模小橋(もくろ橋)に代わりあゆみ橋開通
- 8年(1996年) かしわ台跨線橋完成
- 9年(1997年) 市民活動サポートセンター開館
- 10年(1998年) 子育て支援センター開設  
かながわ・ゆめ国体開催
- 13年(2001年) 北部公園全面完成  
海老名警察署開署  
リサイクルプラザ完成

市制30周年だそうである。私が海老名に越してきたのは、20年前当初は、ほろほろの田舎に来つたものかな。と感慨深かった。生まれ初めてウシガエルの声を聞いた。初めは何の音も分からず、海老名には得体の知れぬ怪物が住んでいると思つた。そして、カエルの大発生。小指の先ほどの赤やんカエルから子ども手のひらサイズまで、無数に何十、何百と狭い庭先にひしめき、うっかり戸戸を開けるとのびのびと、押し花ならぬ押しガエルにしてしまう。用水路でエサを探すコサギのユーモラスな様子には、思わずほほ笑んだこともあった。いったん釣ったか、釣りがソコギ(たぶら)を釣りに上げたのを見たことがあつた。

秋になると、トンボが群れて顔にぶつかるほど。それをネコが捕まえてようとして、ピョンピョン跳びはねていた。だがそれはあつたという間に消え去つた。田んぼは埋め立てられて、駐車場になり、雀のお宿のような建て売りが並んだ(わが家もその一つである)。ウシガエルのとは、声だけでお目にかかることなくお別れしてしまつた。しかし、一番変わったのは駅周辺ではなからうか。昔は、夜電車で帰ってくる。海老名に近づくとつれて車外がだんだん暗くなり、いには真つ暗になった。それが最近、明るくなった。「オオ、海老名も都会になった」と思った。よく見ると、びっしり建ち並んだマンション群の廊下の灯りなのであつた。便利になった反面、消えていく自然を見るのはとても切ない。でも、このところ、トンボが帰ってきた。前ほどではなくなつてはいる。休耕田にはカモの親子が幾組も見られる。そう、海老名は30歳、青年ではない。30歳といへば、まだ夢を捨てていない年ごろ。思慮分別もついていた。そして、働き盛り。私は期待している。これからの海老名に、海老名の明日を背負って立つ若者に。

### 消える自然切ないが青年都市に期待(中新田在住・岡サト)

1998年(平成10年)の価格 (1970年(昭和45年)を1としたとき)	
米	2.7
鶏卵	1.2
テレビ	0.2
整理たんす	3.5
婦人スーツ(冬物)	4.9
中華そば(外食)	5.3
理髪料	6.7
自動車教習料	6.5
通話料	1.4
私立大学授業料	8.7

(経済企画庁 1999年物価レポートより)

### ●物・サービスの値段

### ●海老名の農業

	昭和45年	平成12年
農家人口	7386人	3570人
農地面積	921㌥	614㌥
米作付面積	516㌥	232㌥
米生産量	1780ト	998ト

(平成13年度版「えびなの農業」より)

### ●市の人口と世帯

	昭和46年 (11月1日)	平成13年 (10月1日)
人口	48,594人	118,971人
男	24,487人	60,779人
女	24,107人	58,192人
世帯数	12,743世帯	43,900世帯

市制施行記念番組「海老名市今年で30年」TVKテレビで放送 11月4日(日)午後5時30分〜6時



### 30周年に寄せて

市社会福祉協議会主催のホームヘルパー養成受講会場にいたとき、休憩時間の会話でできた言葉。海老名は、何年お住まいですか? 「15年くらいかな」 「海老名は好き?」 「好きよ。そこそこ緑があつて、スーパーがあつて、買い物も便利だし、映画だつて観られるし、とても調和がとれていて、引越して来た時、駅前が田んぼだつたのでしょ? 感動して決めたのよ。あの開放感は、素晴らしい。眼鏡の奥がキラキラして、田んぼの話、あまりにも当たり前で、見慣れていて、このすばらしさを、心の奥深くしまつていた。海老名は、この田んぼの素晴らしいPRしたことはあるのだろうか。イチゴ、トマト、カーネーションなどは分かるけれど、中学校に通っていたころ、校庭から視野いっぱい田んぼが広がり、その先は、大山しかなかった。学校帰りに、田んぼでドジョウやカニやタニシをはたして捕まえることができて、楽しかった。今でも田んぼの香が、そよぐ風に乗ってくるような錯覚を起すことがある。

